

文明開化のすがた

明治政府は近代化を目指して、西洋の文明や技術を積極的にまねた。これにより、東京には西洋風の暮らしが広がった。このような世のなかの動きを文明開化とよぶ。

文明開化のようすは、当時のすくろく遊びにもえがかれていたんだ！



<生活に取り入れられた文明>

西洋の文明は上流階級の人々によって生活に取り入れられ、それを一般の人がまねることで進んだ。そして、横浜などの開港場から鉄道(→p.84)などを通じて、まず東京へ、そして全国へと広がっていった。



●乗り物

江戸時代までのかごはすがたを消し、それにかわる乗り物として人力車が登場した。ほかにも乗合馬車や鉄道馬車、自転車などの乗り物が明治になって登場した。

明治初期の日本橋。かごは1人を2人がかりで運ぶため効率がよくなかったが、人力車は1人で2人を運ぶこともできて効率がよくなった。



●ガス灯

ガス灯のあかりは、江戸時代までつかわれていた行灯や提灯に比べてとても明るかった。町を明るく照らすガス灯が立てられたおかげで、人々は夜でも行動できるようになった。



1874(明治7)年、京橋と芝金杉橋(現・港区)の間に85基のガス灯が立てられた。

●電信

電信とは文字などの情報を電気信号に変えて伝送する通信方式。江戸時代までの飛脚(→p.41)制度が、明治になって電信、郵便(→p.82)に変わった。



●時計塔

西洋の時計が輸入され、新しく建てられた西洋風の建物につけられたり、もともと建っていた和風の建物につけられたりして、近代化の象徴として流行した。



服部時計店時計塔
銀座四丁目交差点角地(現・和光)に建っていた。今も銀座の象徴として有名だ。

暦と時間の決まりが変わった

1873(明治6)年、明治政府は西洋に合わせて、暦を太陽暦に、時間を定時法に改めた。これにより日本中の時刻が統一され、すべての人が同じ時間を共有するようになった。

●洋装

江戸時代までは、男性も女性も和服すがただったが、まず、軍隊や上流階級の人々を中心に、洋装(西洋風の服装)が広がっていった。



洋服は高価で、上流階級の人々しか手に入れることができなかったのよ。



●牛なべ

牛なべは西洋の肉食の習慣を日本流のなべ料理で取り入れたもので、大人気だった。銀座通りには牛なべを食べさせる店が多くなった。



新旧おもしろ合戦

西洋から入ってきた舶来品と、古くから日本にあるものが戦っているようすがえがかれている。近代化を自指して、急速に西洋化する世のなかを表現してえがかれた。

